

「太子町子ども読書活動推進計画（案）」に係るパブリックコメント制度に基づく提出意見
に対する町の考え方

- ・意見募集期間：平成 31 年 2 月 14 日（木）～平成 31 年 3 月 13 日（水）
- ・意見提出者数：10 名
- ・意見数：7 件
- ・意見及び町の考え方

項目	提出されたご意見の概要	提出されたご意見に対する町の考え方
① 計画への賛同	<ul style="list-style-type: none"> ・読書活動推進計画の策定は本当に必要なことだと思う。 ・細かい部分まで検討、計画されていてすばらしいと思った。 ・心豊かな子どもたちの成長のためにも読書推進と読み聞かせは必要だと思う。 ・計画の意義について、考え方に賛同し、納得した。 	<p>本計画（案）を基本として、家庭、地域、学校、図書館が連携し、子どもの読書を支え、推進していくことを目的としています。計画を広く周知することにより、それぞれの立場で何ができるかを考えるきっかけになればよいと考えております。</p>
② 大人（保護者、教諭、ボランティア）の関わり的重要性	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの読書推進のためには、素敵な「本を楽しんでいる大人」が必要不可欠だと思う。 ・学校や園で先生やボランティアが絵本を読んであげることが大切。大人が絵本、読書好きにならなければならないと思う。 ・子どもに本を読ませる法律があるとは知らなかった。まずは、大人が読んで語ろう。 	<p>ご意見のとおり、子どもに本好きになってもらうには、周りの大人の関わりが重要です。家庭で、幼稚園・保育所や学校で、図書館で、大人が読書を楽しみ、子どもに絵本を読んでやり、本を身近にすることが本好きな子どもを育てる基本と考えます。</p>
③ ボランティアの活動について	<ul style="list-style-type: none"> ・先生やボランティアの読み聞かせや図書館司書の学校訪問など、現在の活動を少し増やしたり見直したりすることで、子どもたちの本に親しむ時間が多くなるのでは。 ・PTAによる朝の読み聞かせが 2018 年度より小学校 4 校すべてで実施されるようになった。必ず年度初めに講習を受けて、一人ひとりが取り組んでいる形態を続けてほしい。 ・第 3 章の 2「課題と取組」の中で、ボランティアについて、学校のカリキュラムとの調整や人数の確保が難しいという課題もある。 	<p>太子町でも、ボランティア活動が盛んになり、幼稚園や学校でたくさんの方が活動されています。学校のカリキュラムとの調整や人数確保などの課題もありますが、年度初めの講習を継続し、子どもたちに絵本を楽しんでもらう機会が少しでも多くなるように、ボランティアの方のサポートも行っていきたいと考えております。</p>

<p>④学校図書室の整備・司書の配置</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書室のきちんとした選書のために、図書館の支援も得て本を購入することを望む。 ・姫路市では各学校に学校司書を配置している。図書室が整理され、本の貸出にも工夫がされているようだ。太子町の学校図書室はどうか？まずは図書室や学級文庫の整備からと申し上げたい。 ・小学校の図書室をもっともっと充実させる（図書室に司書をおく）。 ・教育現場での先生方の負担を増やさないためにも、図書館だけでなく活動の中心となる司書さんを学校に配置していただけたらと思う。 ・高校時代は図書室に若い司書の方がおり、話しやすく、自分の希望の本も入れてもらった。太子町では、小学校の図書室のスペースも本の数も少ないことには同意する。小学校だけでは賄えない読書の大切さの教育に関して町で尽力することは大切だと感じる。 	<p>学校図書室で子どもたちがすぐれた本に出会うためには、丁寧な選書が必要なことは言うまでもありません。選書については図書館が支援を継続していきたいと考えています。また、一人ひとりの子どもに最適の本を手渡すために、本にも子どもにも理解の深い学校司書の配置が必要です。図書室の充実と、学校司書の配置に複数の方からご意見をいただいたことを踏まえ、今後とも検討課題とさせていただきます。</p>
<p>⑤保護者の啓発</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭ではテレビを消し、そばにいる大人が読書する姿を当たり前にし、できれば読んでほしい本をそっと置いておくこと」30年間の教師生活の中で保護者に言い続けてきたことである。 ・幼児のご両親への啓発運動が大事だと思う。第1章にある基本理念を保護者にしっかり理解してもらうことが第一歩のような気がする。両親が少しの時間でも本を読んでいる姿を子どもに見せる家庭環境があればいい。 ・家庭でできる絵本の読み聞かせを薦める。保護者へ向けて、読書についての講演会を開催する。 ・保育園の保護者の方は、夜や夕方まで仕事で、子どもがいくら読んでほしくても、疲れていて読めない、本にあまり関われない、図 	<p>ご意見のとおり、幼児期に絵本や昔話を家庭で身近な大人から読んでもらってきた子どもは、学齢期からの、ひいては生涯にわたる読書習慣の形成が容易であると考えております。図書館では、従来から、図書館報で児童書を紹介し、子どもの読書についての講演会やわらべうたや絵本の講座を開催してきました。子どもの読書推進計画の策定を契機として、「子どもの読書活動の推進に関する法律」の基本理念であるように、読書が「子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものである」ことを、さらに深く保護者に理解していただけるような講</p>

	<p>書館もおっくうである、といった方もあると思う。そういった保護者の皆さんへの課題と取組も検討されるべきではないかと思った。</p>	<p>演会や講座を企画することを考えております。</p> <p>また、御指摘のように、忙しさや、関心の薄さから本や図書館に関わってこれなかった保護者の方々にも、園や学校と連携しつつ、本や読書の大切さを理解していただけるような取組を検討してまいります。</p>
⑥読書の楽しみにつながる行事の企画	<p>図書館、幼・保・学校を中心に本を読むことは「おもしろいんだ」とわかってもらうような企画を考えていただきたいと思う。</p>	<p>ご意見のとおり、子どもにとって、本を読むのは楽しいという経験を重ねることが読書の習慣を養うことにつながります。本計画をきっかけに、図書館、幼・保・学校が連携して、子どもたちに読書の楽しさを伝える企画も検討してまいります。</p>
⑦読書感想文	<p>読書感想文を書くのは嫌というのは誰もが経験したこと。心に感じたことを文章にまとめるのはとても難しいので、書きたくない人は書かなくてよいというようにはできないのか。</p>	<p>本計画は、子どもたちが「本を楽しむこと」が最も大切だという考え方を基本としています。感想を言葉にすることを強制することは、読書嫌いを助長することにもなりかねません。本計画を周知することにより、感想文よりも、まず本を楽しむことが大事だということを伝えていきたいと考えております。</p>